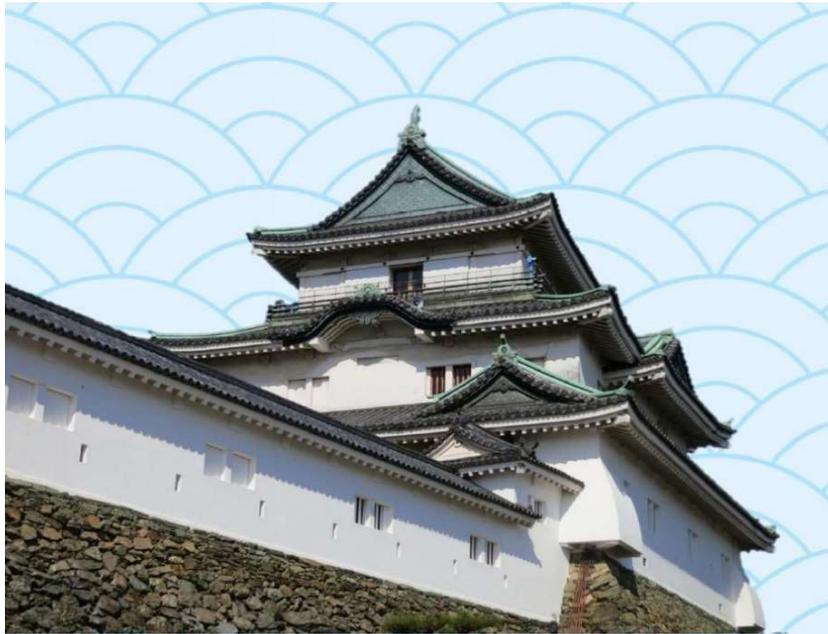


令和5年3月  
和歌山城天守閣整備検討ワークショップ  
実施報告書



和歌山市 和歌山城整備企画課

## 目次

はじめに	2
第1回ワークショップ	4
第2回ワークショップ	7
第3回ワークショップ	11
第4回ワークショップ	16
まとめ	18
おわりに	23

はじめに

○ 和歌山城天守閣整備検討ワークショップについて

和歌山城天守閣は、昭和33年10月に再建されてから、既に60年以上が経過し、耐震性の不足や建物の老朽化から、現在和歌山市では将来に向けた整備方針の検討を進めています。

しかし、天守の再整備には、文化財保護法等の関連法規との関係や、天守台石垣の遺構保護等の大きな課題があるだけでなく、再整備のための工法や手法、考え方により、新たな課題や様々な検討事項への対応が必要となります。

和歌山市のシンボルであり、歴史の象徴である和歌山城天守閣の将来を考えるためには、行政だけでなく、市民の皆様、和歌山市で活躍する皆様と共に、和歌山城天守閣に地元の我々が求めるあり方や目指す姿を改めて議論することが重要です。

本事業では、和歌山城天守閣が地域にとってどのような存在であるのかを再認識すると共に、そのあり方や目指す姿に見合った施設であるためには、どのような整備や活用、見せ方が相応しいのか、地域の皆様からの意見の抽出を目的に、全4回に渡るワークショップを実施しました。

○ 実施日程

- 第1回 令和4年 9月4日(日)
- 第2回 令和4年10月10日(月祝)
- 第3回 令和4年11月12日(土)
- 第4回 令和5年 1月29日(日)

○ ワークショップの構成

- 進行・ファシリテーター 穂藤 友美 (朝のファシリテーション勉強会)
- ファシリテーター 平野 隆則 (朝のファシリテーション勉強会)
- ファシリテーター 後藤 千晴 (朝のファシリテーション勉強会)

○ 運営支援

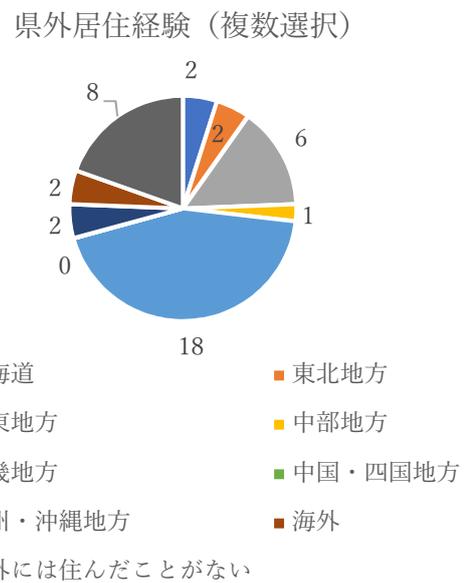
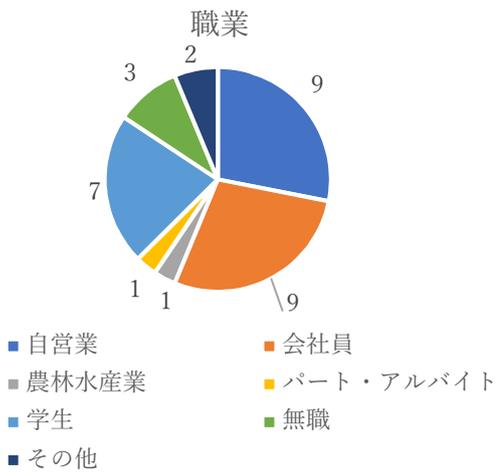
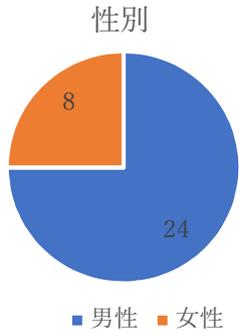
株式会社 テレビ和歌山

○ 参加者

- 公募市民 10名 (市報で公募 応募者25名から抽選)
- 地元学生 8名 (市内大学等で募集 応募者全員が参加)
- 各団体からの出席者 14名 (協力団体へ参加者を選出依頼)  
(協力団体 五十音順 ( )内は団体の活動区分)
- ・建築三団体まちづくり協議会 (3名 建築・まちづくり)

- ・ 国宝和歌山城木造復建の会 （3名 まちづくり）
- ・ 和歌山城郭調査研究会 （2名 歴史・文化財）
- ・ 和歌山城から始めよう！ みんなにやさしい和歌山をつくる会 （2名 バリアフリー）
- ・ 和歌山商工会議所青年部 （2名 地元経済）
- ・ 和歌山青年会議所 （2名 地元経済）

（参加者属性）



## 第1回ワークショップ

○ 日時 令和4年9月4日(日) 9:30~16:30

○ 場所 午前 和歌山市役所7階 記者会見室  
午後 和歌山県民文化会館 3階 特設会議室

### ○ スケジュール

- 9:30~ あいさつ及び事業説明  
座学「和歌山城の築城～焼失～再建の歴史説明」(和歌山市 学芸員)
- 10:00~ 各グループ自己紹介
- 10:30~ 現地フィールドワーク  
・御橋廊下(復元建造物)の見学  
・重要文化財岡口門(木造現存建物)の内部見学  
・和歌山城天守閣の内外の見学
- 12:30頃~ 休憩(各自昼食)
- 14:00~ グループワーク「気づきの共有」
- 16:30頃 終了

第1回ワークショップでは、事業の説明と共に「地元の我々が求める和歌山城天守閣のあり方や目指す姿」を楽しく、真剣に考えていくことを投げかけ、和歌山城の築城～焼失～再建までの歴史について、市の学芸員から解説を行った。

その後、年齢や性別等の属性が偏らないように6つのグループに分かれ、自己紹介の上、和歌山城天守閣の現状で気づいたことをグループで共有することを今回のゴールに設定し、「①すてきなところ・残したいこと」「②変えたいところ・今後のばしたいところ」の2つの目線から和歌山城内のフィールドワークに向かった。

フィールドワークでは、平成18年に木造復元された御橋廊下や、普段は非公開である木造現存建物の岡口門(国指定重要文化財)の内部、和歌山城天守閣内外を学芸員の解説を交えて見学した。

午後からは場所を移して和歌山城内を見学して思ったこと等をグループ内で共有するグループワークを行い、「①すてきなところ・残したいこと」「②変えたいところ・今後のばしたいところ」に整理した。その後他のグループの見学や休憩を挟み、1日の感想等を一人ずつ発表し、第1回ワークショップを終了した。

### (参加者からの意見のうち、特に重視するという意見の多かったものの類型)

すてきなところ・残したいこと	変えたいところ・今後のばしたいところ
1 石垣 17(豊富に残る石垣の魅力)	1 メンテナンス 19(城内の除草や維持管理)
2 景色 14(天守閣からの景色)	2 体験 12(城内の活用)
3 歴史 9(築城・再建それぞれの歴史)	3 施設 11(授乳室や子ども向けの設備、他の復元建造物)
4 外観 8(天守閣の外観)	4 展示、アクセス 各7(天守閣の展示、天守までのアクセス、駐車場)

## 第1回ワークショップの様子 事業説明



## 自己紹介



## フィールドワーク



# グループワーク



## 第2回ワークショップ

- 日時 令和4年10月10日(月祝) 13:00~16:30
- 場所 和歌山県民文化会館 3階 特設会議室
- スケジュール

13:00~ あいさつ

和歌山大学教授 副学長 足立 基浩氏による講演

「未来型和歌山城を考える 和歌山城の価値とは何か？」

前回の振り返り

グループワーク「和歌山城を多角的にとらえる」

~あなた以外の“誰か”から和歌山城はどう見える?~

16:30頃 終了

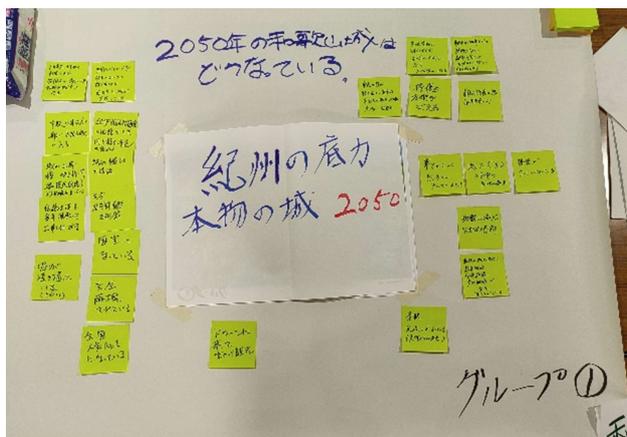
第2回ワークショップでは、前段に和歌山大学教授 副学長 足立 基浩氏による「未来型和歌山城を考える 和歌山城の価値とは何か?」と題した講演を聞き、和歌山城の価値をどのように測り、考えることができるのかを学習し、和歌山城の持ち得る価値や派生するアイデア等についてグループで共有を行った。

グループワークでは、和歌山城の理想の未来を言葉にすることを今回のゴールに設定し、2050年の和歌山城がどうなっているのかを市民、観光客、老若男女等の様々な目線で考え、グループで共有し、最後に各グループの想像した未来の和歌山城にタイトルを付けて発表し、第2回ワークショップを終了した。

(各グループで共有した未来の和歌山城の想像に付けたタイトル)

### 1 グループ

「紀州の底力 本物の城 2050」



### 2 グループ

「新和歌山城」

和歌山県民に「優しい」「稼げる」和歌山城!



3グループ・6グループ（合同）  
「復元 実現 未来へつなげる和歌山城」



4グループ  
戦後復興天守国宝第1号



5グループ  
「1 mile smile ほんなら和歌山城」



## 第2回ワークショップの様子 足立 基浩氏による講演



## 前回の振り返り



## グループワーク



## 発表



### 第3回ワークショップ

○ 日時 令和4年11月12日(土) 13:00~16:30

○ 場所 勤労者総合センター 6階 文化ホール

○ スケジュール

13:00~ あいさつ

前回の振り返り

テーマごとや興味あるジャンルでグループを再編成

グループワーク「理想の和歌山城の実現に必要なモノ・コトは？」

株式会社丹青社による事例紹介

16:30頃 終了

第3回ワークショップでは、前回整理した「和歌山城が地元の人にとってどういう存在か」と「和歌山城の理想の未来」について振り返りを行い、参加者各自が話し合いたいと考えるキーワードを選んで、近いキーワードを選んだ人と議論が深められるようマグネットテーブルという手法でグループを4つに再編した。

その後のグループワークでは「理想の和歌山城の実現に必要なモノ・コトは？」と題し、理想の和歌山城を明確にし、そのために必要な行動や課題をグループで考え、共有し、発表を行った。

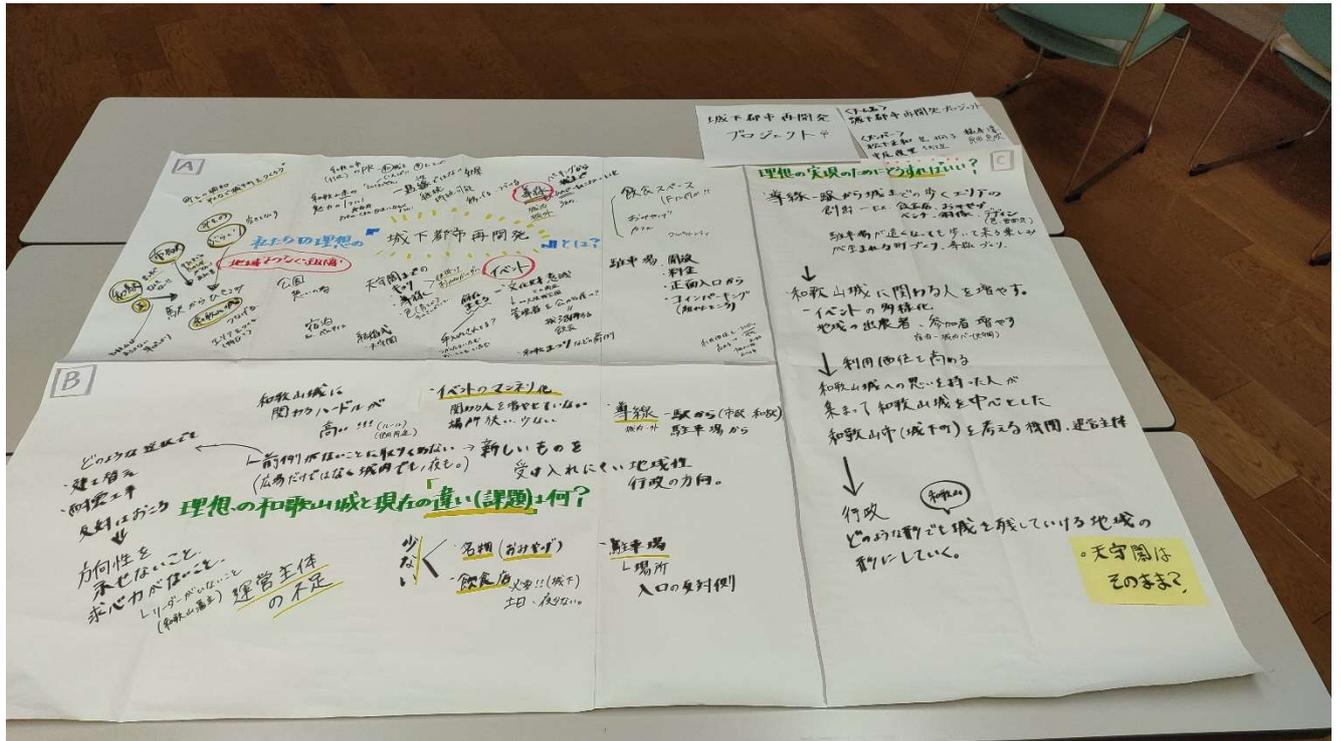
また、グループワーク後には、株式会社丹青社の様々な空間展示の手法や事業着手から実現までのプロセスの事例紹介を聴き、描いた理想をどのように表現、実現していくのかについて学習を行い、第3回ワークショップを終了した。

#### (各グループの考える理想の和歌山城のテーマ)

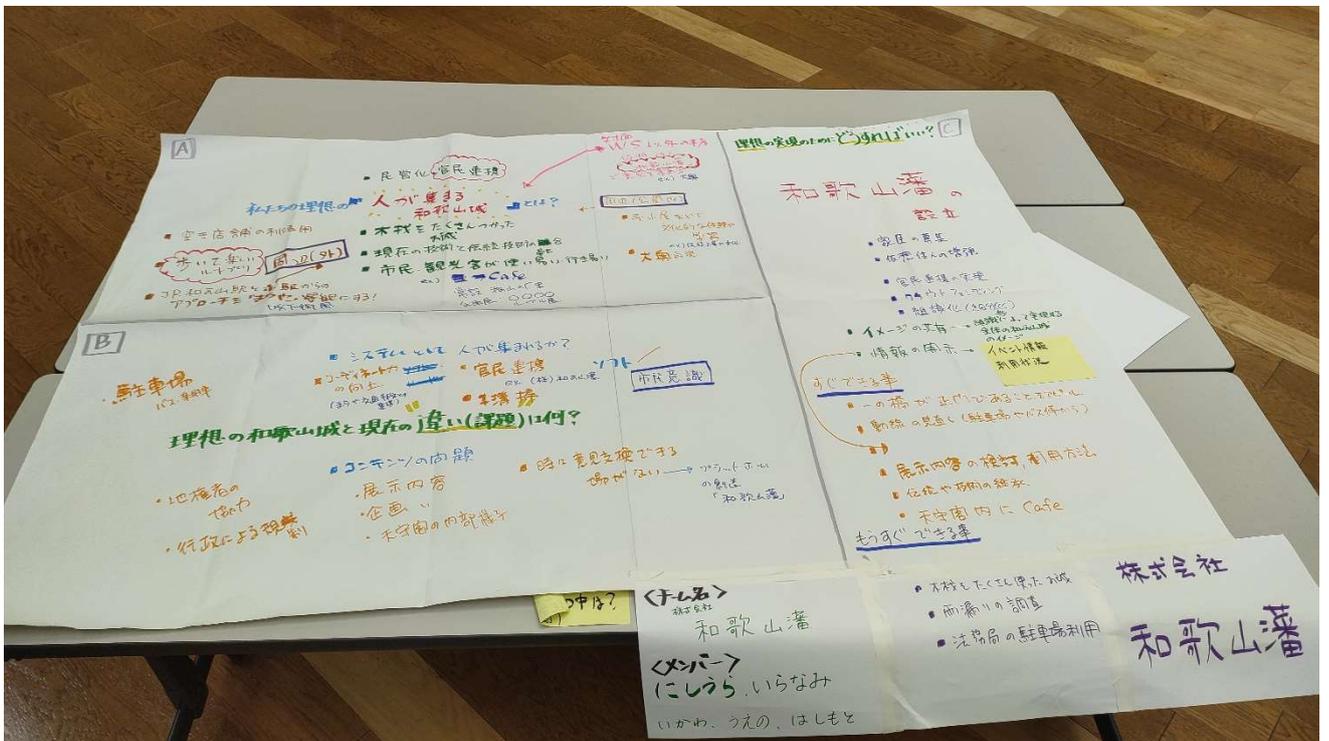
チーム名	理想の和歌山城のテーマ	重要視するキーワード
天守閣	天守閣 (シビックプライド)	戦後復興天守で「国宝第1号」を目指す 天守で内部の展示(歴史展示)をしっかりと行う 城全体でメンテナンスをしっかりと行う
チームD	未来につながる和歌山城	バーチャル技術の活用、体験ができる 子供たちが楽しめる 人と人がつながるコミュニティ
城下都市再開発プロジェクト	城下都市再開発	人の動く導線 イベントの充実 地域と繋ぐ組織
株式会社 和歌山藩	人が集まる和歌山城	官民連携 和歌山藩 歩いて楽しいルートづくり



(チーム名「城下都市再開発プロジェクト」)



(チーム名「株式会社 和歌山藩」)



### 第3回ワークショップの様子 前回の振り返り



### マグネットテーブル（グループ再編）



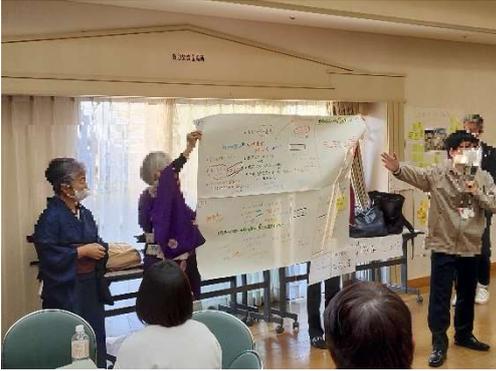
### グループワーク



### 発表



## 株式会社丹青社による事例紹介



#### 第4回ワークショップ

○ 日時 令和5年1月29日(日) 13:00~16:30

○ 場所 勤労者総合センター 6階 文化ホール

○ スケジュール

13:00~ あいさつ

前回の振り返り

グループワーク「【チーム】の理想を実現する天守閣とは？」

まとめ

16:30頃 終了

第4回ワークショップでは、前回【チーム】で話した内容を実現する天守閣を具体化することをゴールに設定し、前回各グループが考えた「理想」について、ファシリテーターが用意した問いかけに対し、特殊な模造紙(※はちのす状の六角形のマス目を使って発想を展開するもの)を用いて「理想」をより具体化するグループワークを行った。その後出た意見を整理し、これまで話した内容を実現する和歌山城天守閣について、各グループでとりまとめを行い、発表を行った。

最後に全4回に渡ってのワークショップの振り返りとして、自分にとっての和歌山城天守閣、まちにとっての和歌山城天守閣を参加者ひとりひとりが考え、それぞれが理由と共に発表し、ワークショップを締めくくった。

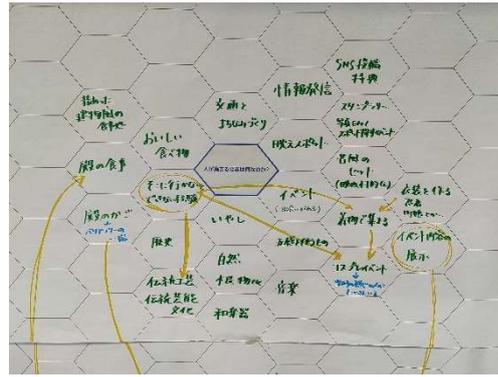
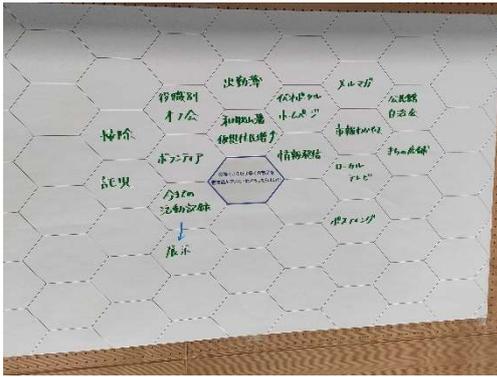
#### 第4回ワークショップの様子

##### 前回の振り返り

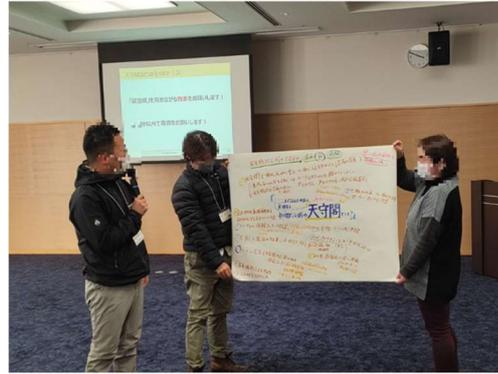


##### グループワーク





発表



記念写真



## まとめ

地域が本当の意味で求める和歌山城天守閣の整備内容を検討するため、今回のワークショップは、次の構成により実施している。

第1回ワークショップでは、和歌山城に関する歴史や知識を実地で学んだ上で、和歌山城に関する良いところ、改善していきたいところなどの気づきを参加者間で共有することから始めた。

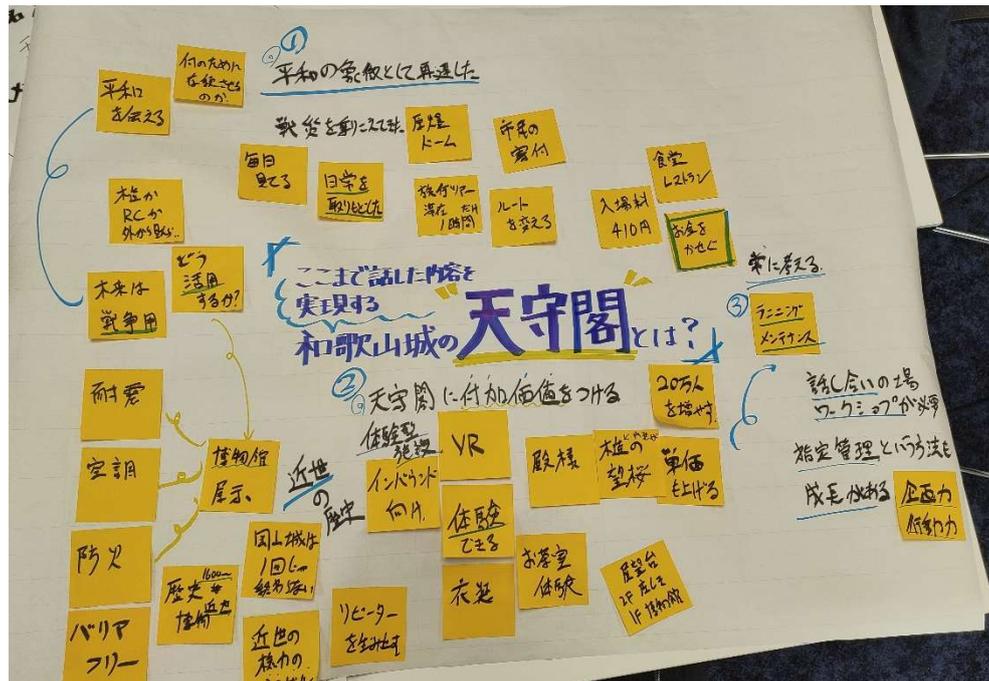
そして、第2回ワークショップでは、和歌山城に求める理想をそれぞれが自由に発想できるよう、和歌山城に内在する多様な価値を学びながら「未来（理想）の和歌山城」を思い描くというプログラムを実践した。

第3回ワークショップからは、それらのイメージをさらに具現化するため、「理想の和歌山城」の実現に必要な取り組みを考え、実現させるためのプロセスを学び、最終回である第4回ワークショップにおいて「理想の和歌山城」を具体化することのできる天守閣像をグループで議論し、深めることができた。

### ○各グループのワークショップのまとめからの意見抽出

本項では、全行程を経て各グループで議論された「理想の和歌山城」とそれを実現する天守閣についての意見が「和歌山城天守閣に地元の我々が求めるあり方や目指す姿」であると考え、特に整備後の天守閣に求められる機能や設備、維持管理等の観点から必要と思われる意見を抽出し、考えられる整備内容等について検討する。

(チーム名「天守閣」)



(抽出意見)

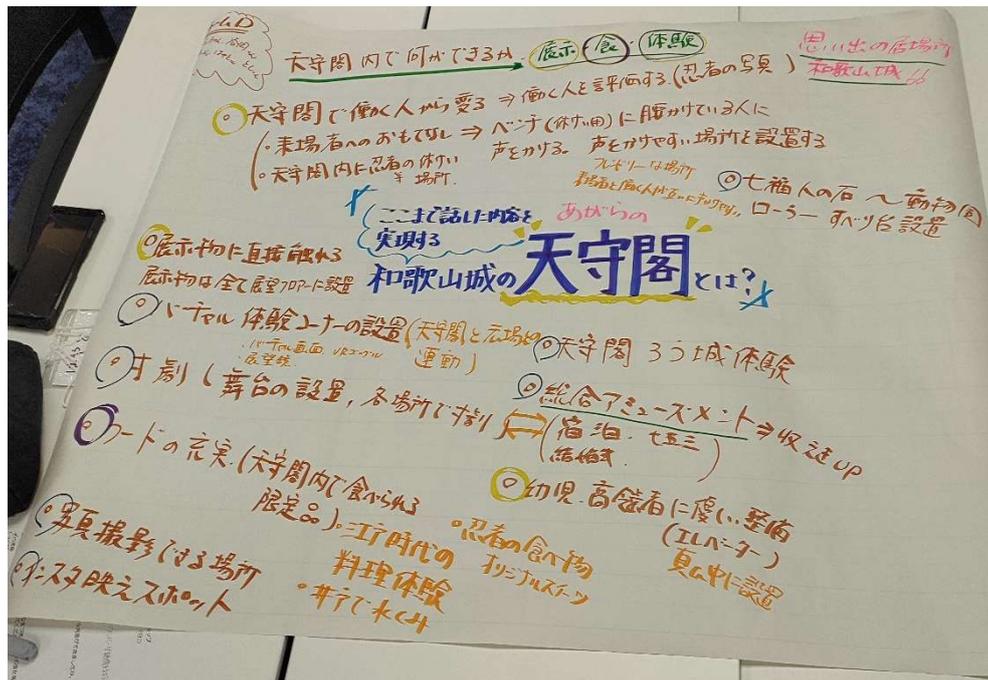
抽出意見	意見の分類
昭和再建天守は「平和の象徴」として再建されたもの。	ストーリー性
付加価値と活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な博物館をつくる (近世)</li> <li>・インバウンドを含め様々な体験ができる</li> </ul>	機能
常に考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランニングコストを稼ぎ、メンテナンスに</li> <li>・地域との話し合いの場が必要</li> <li>・企画力、行動力のある民間で運営 (指定管理)</li> </ul>	維持管理 運営

(考えられる整備内容等)

これまで和歌山城天守閣では大きくは取り上げてこなかった天守の昭和再建について、改めて顕彰し、「平和の象徴」としてのストーリー性を踏まえた展示や様々な体験ができるよう十分な設備整備を行うことが考えられる。ただし、展示については山頂にある建物であり、史資料の保管環境に十分留意が必要。(近世の歴史については、麓のわかやま歴史館がガイダンス機能の役割を果たしており、住み分けになるか。)

サステナブルな管理運営については、天守内をより汎用性が高く、電気・通信設備等も充実した空間とすることで、地域での活動や様々な企画にフレキシブルに活用することが考えられる。ただし、備品類については随時の持ち込みが容易でないことから、十分なバックヤードの確保、昇降機等の設置が必要か。

(チーム名「チームD」)



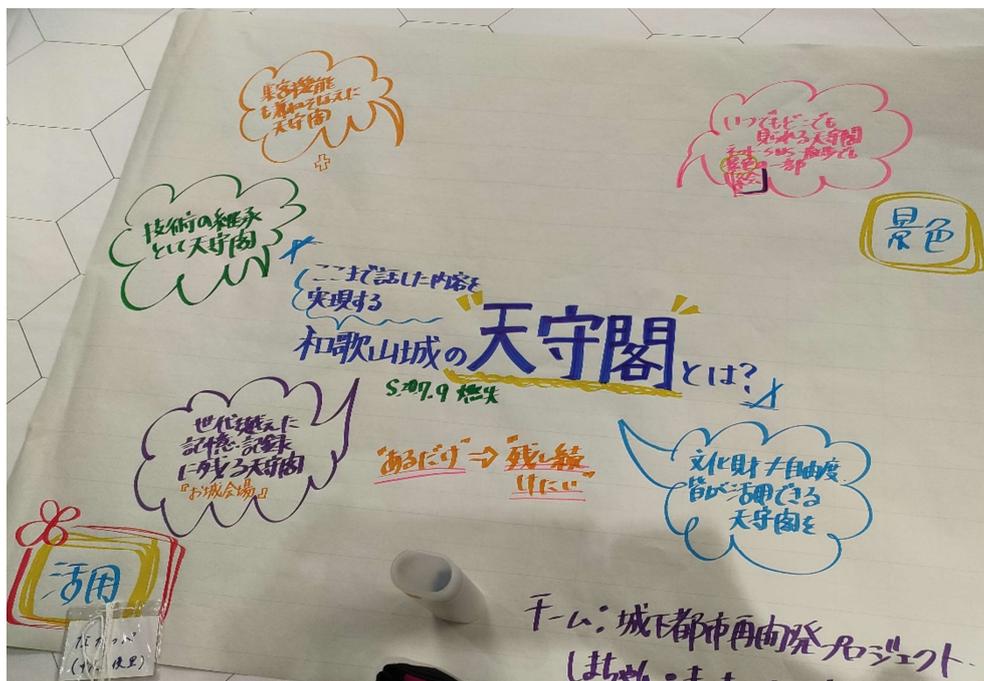
(抽出意見)

抽出意見	意見の分類
人と人がつながるコミュニティ ・人があつまる、みんなが集まれるように ・子供、高齢者にも優しい (エレベーター) ・思い出になる	機能、設備
子供たちが楽しめる ・上り下りも楽しく (しんどくない) ・安全性、自由に動きまわれる	機能、設備
歴史を感じる展示や体験 (バーチャル体験や寸劇)	機能、設備
総合アミューズメント 収益化 ・展示、食、体験	機能、設備
来場者と働く人が互いに声をかけやすい、フレンドリーな場所 働く人を評価し、おもてなし体制を強化する。	維持管理 運営

(考えられる整備内容等)

老若男女が楽しみ、施設運営者も含めたコミュニティの形成に寄与するようなイベントや体験が実施できる施設に整備することが考えられる。この場合、天守閣までの道のりには課題を残すものの、エレベーターや便房設備等のバリアフリー化を初め、ユニバーサルデザインを取り入れた内装が必要か。様々な体験やアミューズメントについては、電気・通信設備等の充実が必要。飲食については、給排水設備の整備による遺構への影響が考えられ、整備が難しいと思われる。

(チーム名「城下都市再開発プロジェクト」)



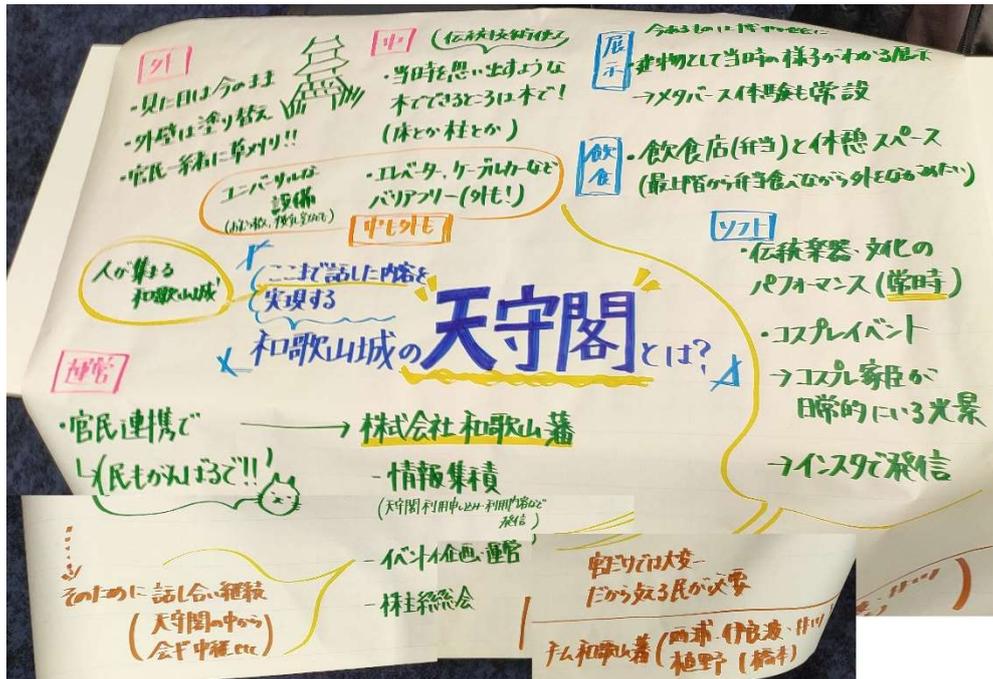
(抽出意見)

抽出意見	意見の分類
<p>そのまま天守閣を残すのではなく、何かを使って活用する。新しい価値をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが活用できる。</li> <li>・あるだけでなく、残し続けたいと思えるように。</li> <li>・世代を超えた記憶、記録に残る天守閣「お城会場」。</li> <li>・色々な意見や声、興味や関心、地域愛や情報が集まる。</li> </ul>	機能、設備
集客機能も兼ね備えた 稼げる天守閣	機能
いつでもどこでも見られる天守閣	景観
<p>技術継承できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木造化を含むメンテナンスの面で、職人技術が途絶えることなく活用される。</li> </ul>	維持管理

(考えられる整備内容等)

多目的なものを含め、汎用性が高く、電気・通信設備等も充実した空間とすることで、様々な天守閣の活用が考えられるようになる。ただし、備品類については随時の持ち込みが容易でないことから、十分なバックヤードの確保、昇降機等の設置が必要か。また、天守が単なる多目的会場ではなく、特別な空間であることを維持するために、上質な景観の保全や内外装に職人技術を用いた意匠等を凝らし、適切なメンテナンスの継続が必要と思われる。

(チーム名「株式会社 和歌山藩」) ※写真が切れているため貼り合わせています



(抽出意見)

抽出意見	意見の分類
<p>人が集まる天守閣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気づくり 展示の充実 (木造ではなくても建物として往時の様子がわかるような再現・展示)、そこに行かないとできない体験 (メタバース等)、イベントの充実</li> <li>・飲食施設、休憩スペース</li> <li>・ユニバーサル、バリアフリー設備 (エレベーターや便房設備)</li> <li>・見た目は今のまま (外壁の塗り替え等メンテナンスをしっかりと)</li> <li>・往時をイメージできるよう伝統技術を使った意匠</li> </ul>	機能、設備
<p>官民連携 仮想住民を増やす (和歌山藩)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信等 運営を担える部分を民間へ</li> <li>・官民で話し合いができる場が必要</li> </ul>	維持管理 運営

(考えられる整備内容等)

内外装共に和歌山城天守閣らしい意匠を備えた雰囲気づくりと体験やイベント等に活用できる設備を充実させることが考えられる。エレベーターや便房設備等のバリアフリー化を初め、ユニバーサルデザインを取り入れた内装との両立が必要。飲食については、給排水設備の整備による遺構への影響が考えられ、整備が難しいと思われる。

施設運営について、随時地元の意見等を取り入れ、天守を活用していくことを想定するならば、天守内はより汎用性が高く、電気・通信設備等も充実した空間とすることが考えられる。また、備品類については随時の持ち込みが容易でないことから、十分なバックヤードの確保が必要か。

## ○ 定量評価について

ここまでで抽出された意見から、特に定量評価による住民ニーズの把握を行う必要があるものを以下にまとめる。

- ・昭和再建天守を「平和の象徴」と位置づけ、訴求していくことの是非。
- ・山頂の天守では史資料の適切な保管や移動が難しく、十分な展示環境が確保できないと考えられることを踏まえた、天守閣内の展示施設の規模・必要性。(実物資料を用いないパネル等による展示が中心となると考えられる。)
- ・天守閣の多目的な活用に対する是非と活用内容。
- ・天守閣までの道のりの抜本的なバリアフリー化に課題を残しながら、天守閣内をバリアフリー化することの是非。
- ・インバウンドや子供向けの体験設備等を設けるため、便房設備を始め各種ユニバーサルデザインを採用していくことと、往時を思わせるような天守閣らしい意匠や雰囲気を保つことのどちらに比重を置くのか。(江戸時代の天守を思わせる意匠と合わないものもあり得る。)
- ・十分な活用ができるだけの電気通信設備等の整備と、往時を思わせるような天守閣らしい意匠や雰囲気を保つことのどちらに比重を置くのか。(使用する部材や配線の養生方法等に影響がある。)
- ・和歌山城天守閣の活用等に関わりたいと考える市民の意識。

おわりに

## ○ 和歌山城天守閣整備検討ワークショップを終えて

公募市民の皆様を初め、地元学生、関係団体の皆様の多大な協力を賜り、全4回に渡るワークショップを実施できたことで、改めて地域の方々の和歌山城に対する強い思いに接することができ、大変有意義な機会となりました。心よりお礼申し上げます。

様々な見地、立場から、グループ内でも意見が合わないことなどもありましたが、共通した思いとして、和歌山城天守閣がいつまでも和歌山市のシンボルとしてあり続けることが必要であり、そのためには、和歌山城天守閣をもっと活用し、メンテナンス費用や地域との関わり等の好循環を生み出していけないといけないということでした。

ワークショップで頂いたご意見等は、天守閣の改修内容だけでなく、その後の維持管理についても、地域の方々との関わりを大切に、持続可能な管理運営ができるよう、今後の和歌山城天守閣の整備検討に役立てていきたいと思っております。

今後、さらに愛される和歌山城をつくっていけるよう、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

<和歌山市 和歌山城整備企画課>